

「健康都市 やまと」

まち・ひと・しごと創生総合戦略

(素案)

～なでしこサポート・人口対策プラン～

目 次

1. 大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

(1) 策定の背景	2
(2) 大和市総合計画との関係性、計画の位置づけ	3
(3) 計画期間	3

2. 総合戦略の策定に向けて

(1) 大和市とは	6
(2) 大和市版人口ビジョンの将来展望について	8

3. なでしこサポート・人口対策プラン

(1) 計画策定の基本的な考え方と体系	12
(2) 基本目標と施策の内容	16
基本目標.I 結婚から出産、子育てが楽しくなるまち	16
基本目標.II 安全・安心で、時代を先取りしている楽しいまち	20
基本目標.III 仕事が見つかりやすく、働くことが楽しいまち	24
基本目標.IV 都心に・海に・山に近い、便利で暮らしが楽しく、富士山にも出逢えるまち	28

4. 戦略策定の経過とPDCAサイクル

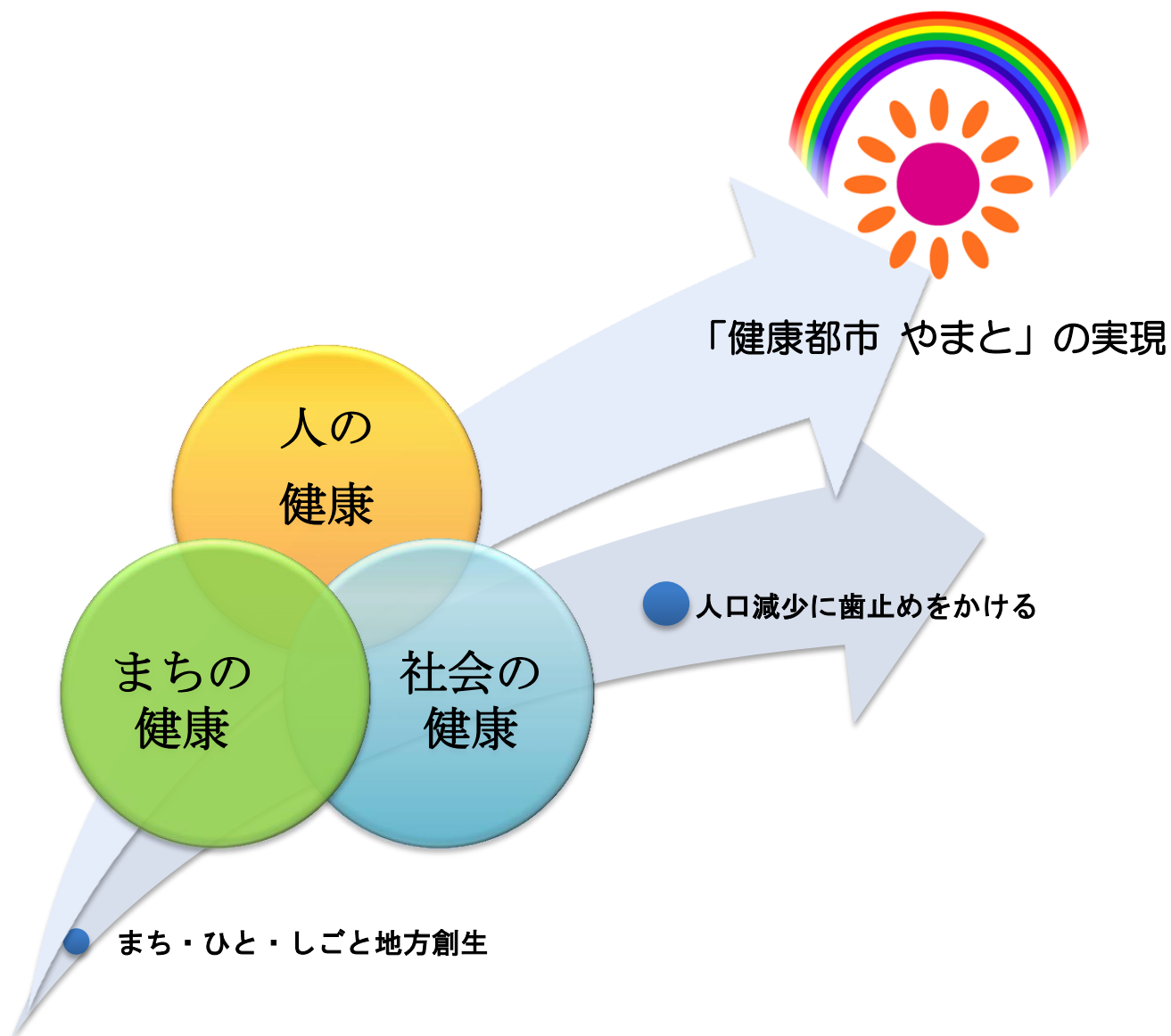
(1) 策定経過	34
(2) PDCAサイクル	38

1. 大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

1. 大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

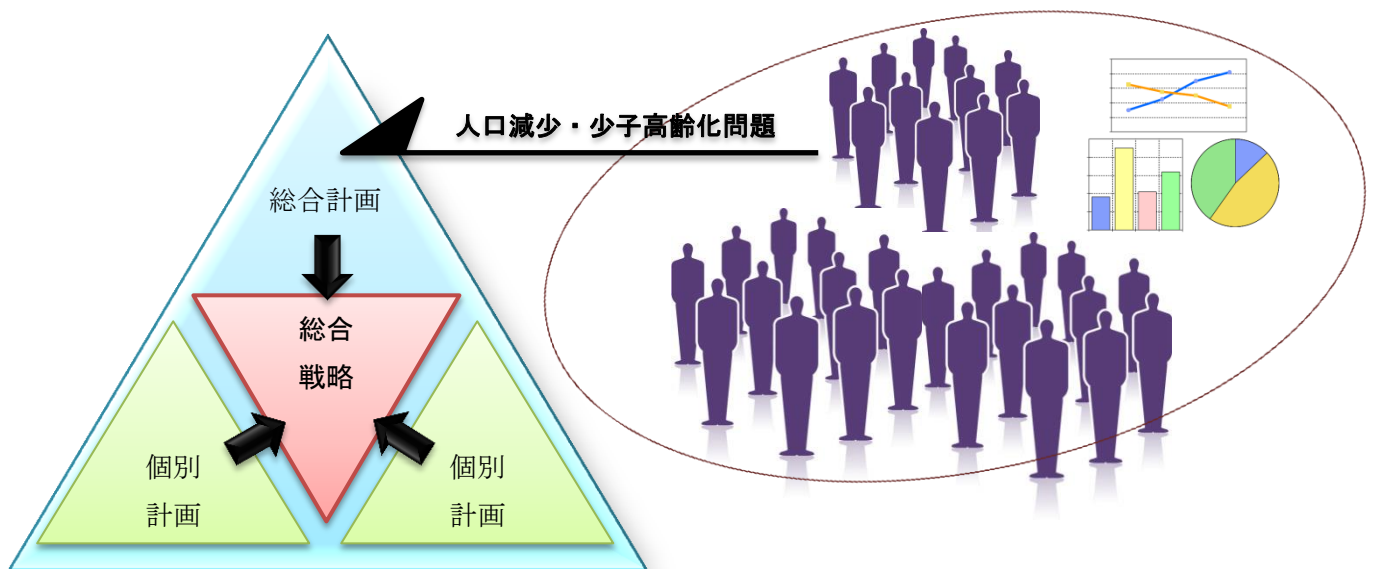
(1) 策定の背景

- ・国は平成 26 年 11 月に、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことなどを目的として「まち・ひと・しごと創生法」（以下「法」という。）を施行しました。また、同年 12 月には法に基づいて「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され、閣議決定が行われました。
- ・法第 10 条には、「市町村は国及び都道府県の総合戦略を勘案して、『市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略』を定めるよう努めなければならない」とされています。
- ・大和市は健康を市政の基軸に据え、「人」、「まち」、「社会」の 3 つの領域の健康の実現を目指す「健康都市」の取り組みを推進しており、その中で、国の動きに先駆けて少子高齢化対策を積極的に展開してきました。今回の国の対応は、「健康都市やまと」の実現に向けた取り組みと、その方向性が同一であると捉えられることから、本市においても「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、市政のさらなる展開を図っていきたいと考えています。



(2) 大和市総合計画との関係性、総合戦略の位置づけ

- ・本市には、「健康創造都市 やまと」を将来都市像に掲げ、土地利用の有り方も含めて、市政の大きな方向性を定めた「総合計画」があります。
- ・この総合計画が市の最上位計画となるため、今回、策定する「大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についても、総合計画に包含されるものとなりますが、人口対策として効果的と考えられる施策を整理し体系化したプロジェクトとして位置づけます。
- ・プロジェクトとして明確化し、PDCAサイクルを稼働させていくことで、人口対策を実効性のあるものとしていきます。



(3) 計画期間

- ・平成27年度～31年度

※計画期間は国の通知によって定められているため、第8次大和市総合計画の計画期間と終了年度が異なります。

2. 総合戦略の策定に向けて

2. 総合戦略の策定に向けて

(1) 大和市とは

○全般

- ・大和市は、神奈川県ほぼ中央に位置し、横浜、相模原、藤沢、海老名、座間、綾瀬、東京都町田の各市に隣接する、人口約 23 万人の自治体です。市域は南北に細長く、丘陵起伏がほとんどありません。
- ・面積は約 27 平方キロメートルと小さな市ですが、都心から 40km 圏内にあつて 3 つの鉄道が東西南北に走り、東京へ 1 時間弱、横浜へは 20 分で行くことができます。市内には 8 つの駅があり、市域のほとんどが駅まで 15 分以内の徒歩圏内にあります。
- ・また、道路網も国道 16 号線、246 号線及び 467 号線のほか県道 4 線が縦横に走り、東名高速道路横浜町田インターチェンジにも近いなど、交通の利便性に恵まれています。



○健康都市のあゆみ

- ・健康都市連合への加盟
- ・「健康都市 やまと」を宣言
- ・「健康創造都市 やまと」を将来都市像とする、第 8 次大和市総合計画を策定
- ・「60 歳代を高齢者と言わない都市 やまと」を宣言
- ・健康都市優秀インフラストラクチャー賞を受賞
- ・第 4 回健康寿命をのばそう！アワード厚生労働省健康局長優良賞を受賞

○大和を代表する「6つの森」とまちの魅力スポット

泉の森



中央林間自然の森



ふれあいの森



中央の森



上和田野鳥の森



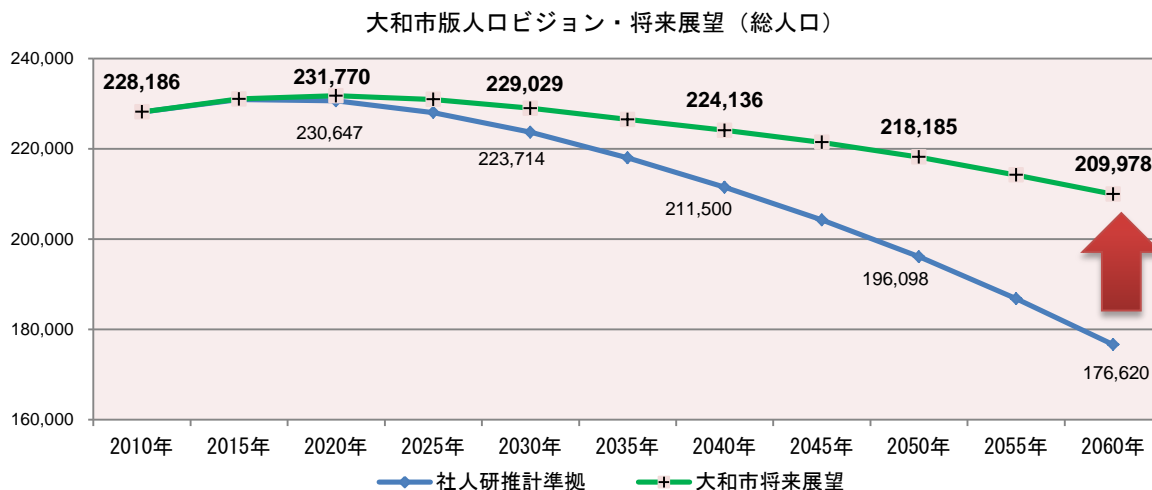
深見歴史の森



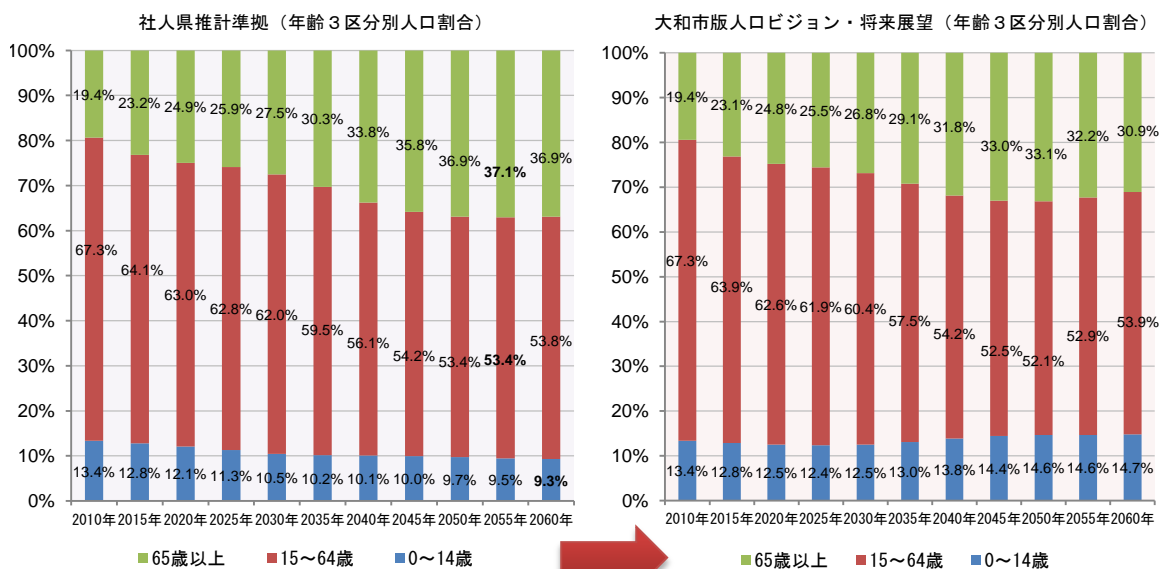
(2) 大和市版人口ビジョンの将来展望について

○総人口・3区分別人口の見通し

- ・大和市版人口ビジョンの将来展望では、市民の結婚・子育て等に関する希望がかなった場合、合計特殊出生率は1.76に達するとし、その際の人口は2030年で約22.9万人、2040年で約22.4万人、2060年には、約20.9万人となり、45年後も20万人台の人口規模を維持しています。
- ・年齢3区分別の構成では、65歳以上人口の割合が2050年に最も多い33.1%をピークに低下する一方、年少人口の割合は2035年以降に上昇に転じ、適当な人口構成のバランスが保持される姿が描かれています。



	2010年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年
総人口	228,186人	231,770人	229,029人	224,136人	218,185人	209,978人
合計特殊出生率	1.29	1.51	1.76	2.03	2.07	2.07



- ・出生率⇒2030年に1.76、2050年には2.07になっている
- ・人口 ⇒2030年に約22.9万人、2060年に約20.9万人になっている

☞人口の自然増減と社会増減とは（用語解説）

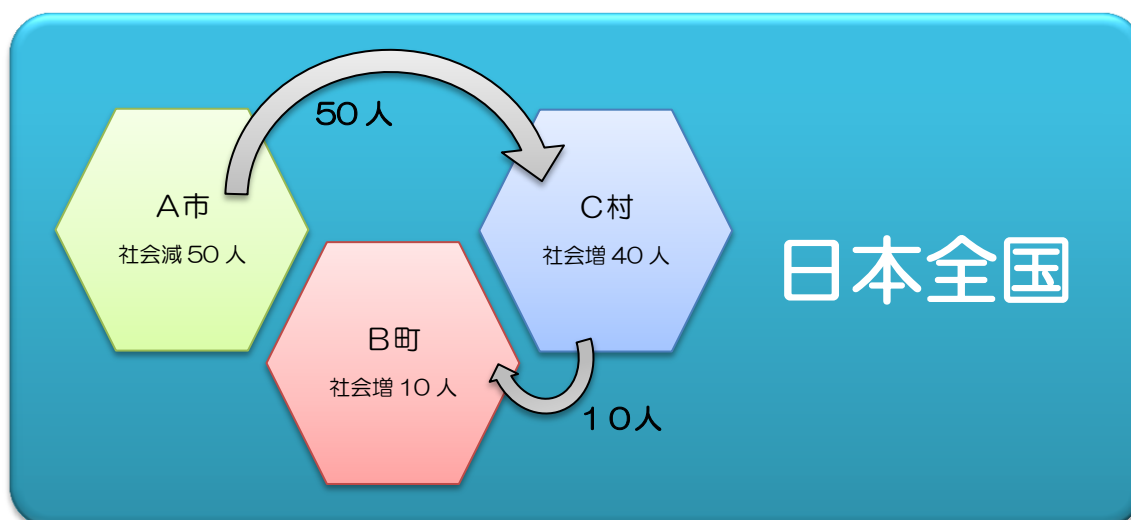
●自然増減（＝出生数－死亡数）

- ・出生数と死亡数の差し引きで表されます。出生数が死亡数を上回っている時には自然増となつて、人口が増加します。反対に死亡数が出生数を上回るようになると、自然減となり、人口は減少していきます。
- ・少子高齢化に伴い、出生数が減ると同時に死亡数が増加していくため、今後、多くの自治体が自然減に移行していくものと想定されています。



●社会増減（＝転入数－転出数）

- ・一定の地域内に流入してくる人と、その地域内から流出する人の差し引きで表され、自治体では転入者数と転出者数の差し引きにより値を求めます。
- ・転入者数が転出者数を上回っている時には社会増となりますが、反対に転出者数が多くなると社会減になります。
- ・大都市圏に位置する自治体は、地方から進学や就職に伴って転入してくる人の受け入れ先になっているため、社会増となっているところが多くあります。
- ・しかしながら、進学や就職する人は若年層が多いため、少子高齢化のさらなる進展に伴い、大都市圏の社会増も縮小していくことが見込まれています。
- ・また、日本全国で捉えると、自治体間を人が移動するのみであるため、人口は変動しません。





3. なでしこサポート・人口対策プラン

3. なでしこサポート・人口対策プラン

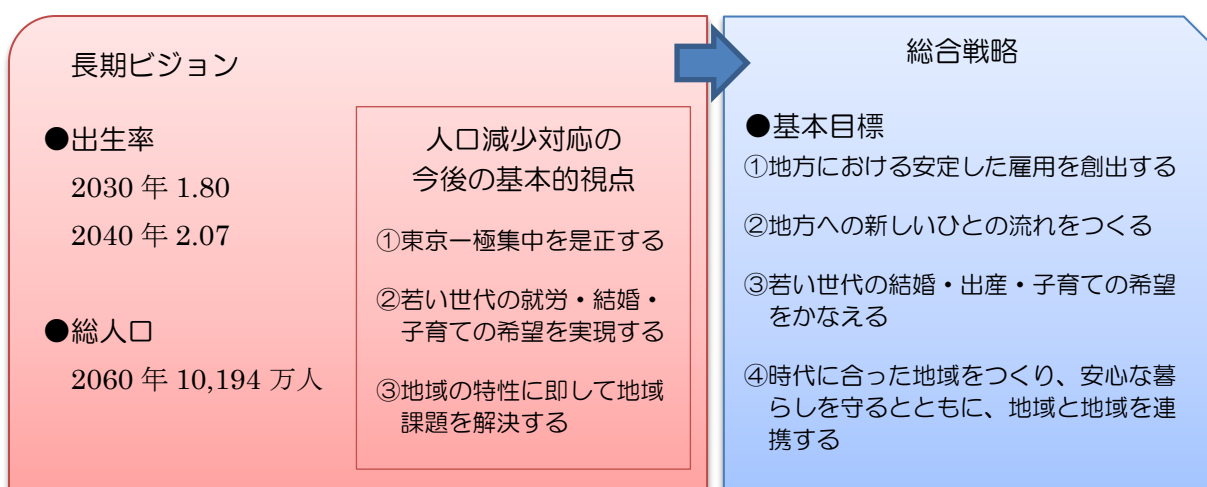
(1) 計画策定の基本的な考え方と体系

○基本的な考え方

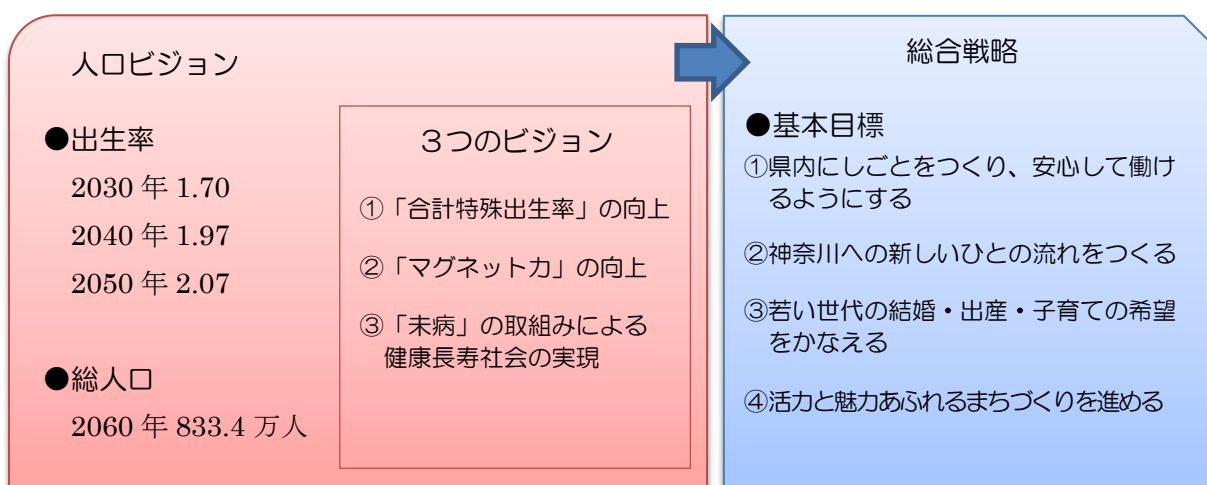
・法及び通知により、勘案することが求められている国及び神奈川県総合戦略を踏まえつつ、本市の特性やまちの魅力を活かした戦略としていきます。

○国・神奈川県の総合戦略

国の対応

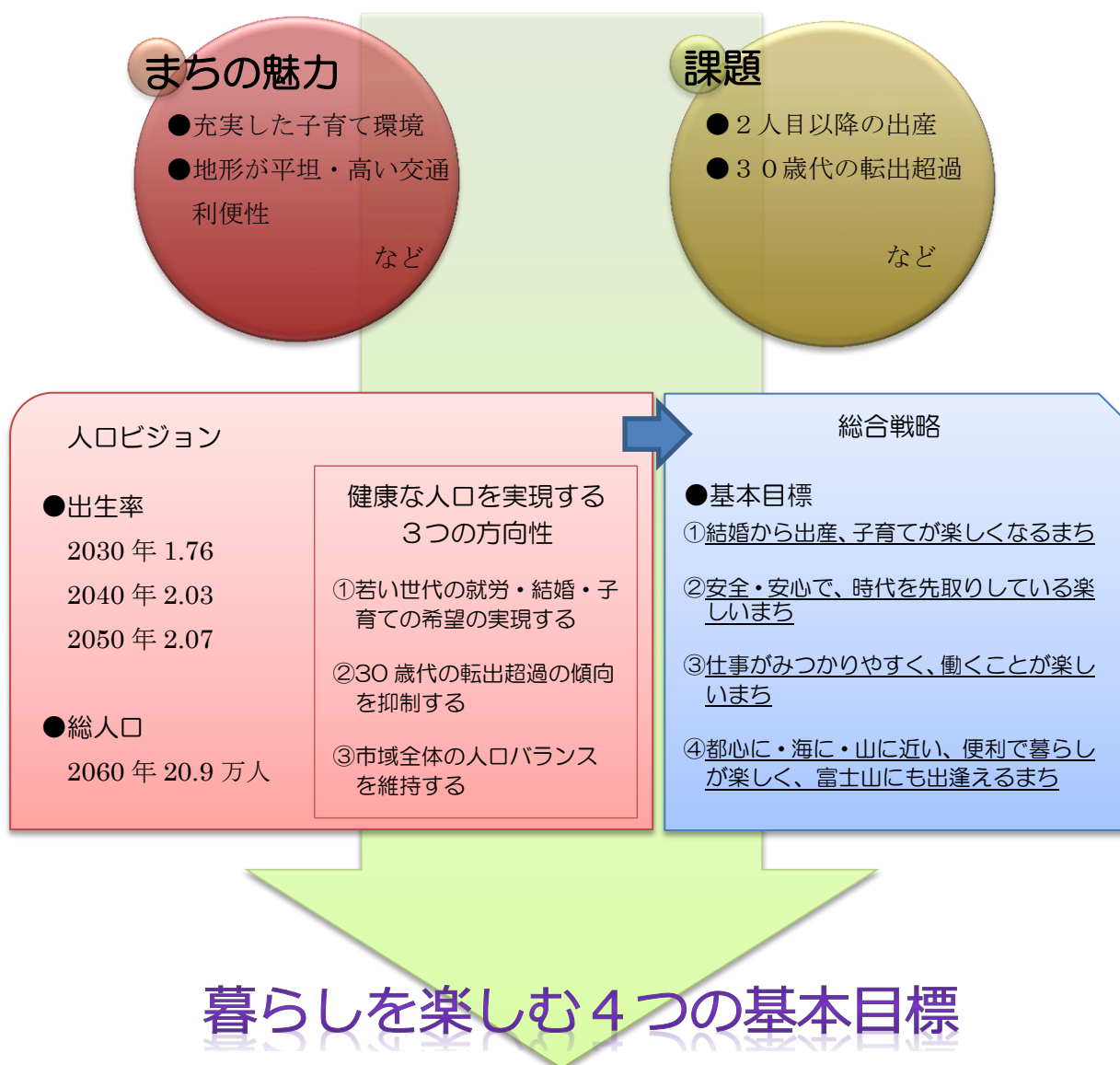


神奈川県の対応



○大和市の戦略

- ・大和市では、まちづくりの機軸に「健康」を据え、人・まち・社会のすべての健康を達成し、市民生活を豊かにしていく、「健康都市の実現」に向けた取り組みを推進しており、その方向性を基本としながら、本市の特性やまちの魅力を次の通り整理し、戦略を展開していきます。
- ・移住政策など社会増を促す施策は、日本全体でみると人口減少の解決を図る根本的な対策につながりにくいと考えられるため、主として「人の健康」領域の施策である若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望を叶える取り組みを加速させ、「自然増」を促していくことを基本とします。
- ・一方、主として「まちの健康」「社会の健康」領域である、都市機能を高める取り組みは、「選ばれたまち」となることにもつながるなど、「社会増」を促す効果があり、特に子育て世代の転出入は、年少人口の増減に大きな影響を与えます。
- ・そのため、「自然増」を促す観点からも、「社会増」に関わる取り組みを人口対策の両輪として積極的に進め、相乗効果を生み出していくことが、最も有効であると考えられます。
- ・こうした考えのもと、大和市版人口ビジョンに掲げた「健康な人口」・「将来展望」の実現に資する施策について、国や神奈川県総合戦略を踏まえながら、次の通り「暮らしを楽しむ4つの基本目標」を戦略の柱として整理し、取り組みを展開していきます。



暮らしを楽しむ4つの基本目標

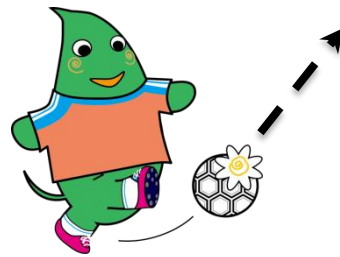
「健康都市 やまと」 まち・ひと・しごと創生総合戦略 ～なでしこサポート・人口対策プラン～

I. 結婚から出産、子育てが楽しくなるまち

- (1) 出産しやすいまち・出産したくなるまちにする
 - ①希望する人が子どもを産んで仕事に復帰できるようにする
 - ②出産・子育ての不安・悩み・負担を取り除く
 - ③出産にかかる経済的負担を軽減する
- (2) 子育てしやすいまち・子育てしたくなるまちにする
 - ①パパ・ママが働くのをサポートする
 - ②子育て等に関する情報を分かりやすく伝える
 - ③子育てにかかる経済的負担や身体的負担を軽減する
 - ④大和で生まれ・学べて良かったと感じられる子育て・教育環境を確保する
- (3) 結婚しやすいまち・結婚したくなるまちにする
 - ①結婚へと繋がる支援のあり方を検討する

II. 安全・安心で、時代を先取りしている楽しいまち

- (1) いつまでも健康でいられるまちにする
 - ①健康寿命の延伸を図る
 - ②スポーツを推進する
- (2) 楽しく外出できるまちにする
 - ①新たなコミュニティバス利用の提案
 - ②親子で出かけたいくなるまちにする
 - ③ぶらっと出かけたいくなるまちにする
- (3) 子どもから大人まで、いつまでも暮らしやすいまちにする
 - ①市域全体の均衡ある発展を促すまちづくり
 - ②防災・防犯力、まちの安全性を高めるとともに、市民のつながりを強める



III. 仕事が見つかりやすく、働くことが楽しいまち

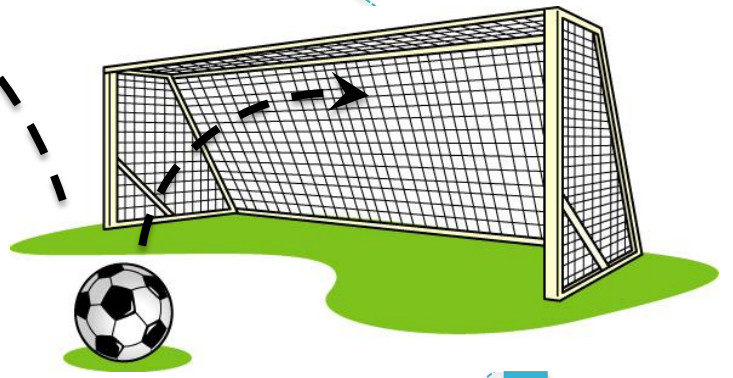
- (1) 近くで働けるまちにする
 - ①ワークライフバランスを進める企業の支援等を行う
 - ②若年層等の就労をサポートするとともに、働くことの楽しさを伝える
 - ③創業・起業の支援を行う
- (2) いつまでも・誰もが活躍できるまちにする
 - ①豊かな経験や知識を活かしてもらう人とステージをマッチングする
 - ②誰もが活躍できるまちをめざす

IV. 都心に・海に・山に近い、便利で暮らしが楽しく、 富士山にも出逢えるまち

- (1) やまとの魅力を発信する
 - ①市内・全国にまちの魅力を発信する
- (2) 魅力的なイベントの開催・やまとの味覚を提供する
 - ①このまちに住みたいと思えるイベントの開催
 - ②やまとの味覚の提供



「健康都市 やまと」
の実現



「健康な人口」
の実現

(2) 基本目標と施策の内容

基本目標 I

結婚から出産、子育てが楽しくなるまち

○基本的な考え方

日本全体の人口減少の解決には、自然増加を促す視点が不可欠です。また、地域に子どもがたくさんいることは、社会性を身につけたり、良い意味での競争心を養ったり、子どもの成長環境としても大切なものであると考えられます。

大和市では、健康都市の実現を目指し、国に先駆けて子どもを産み育てやすい環境の充実に取り組んできました。その結果、大都市圏における出生水準が低い中、本市の合計特殊出生率は神奈川県内19市でも上位の水準にあります。今後は、便利で暮らしやすい大和市の特徴を活かし、充実した子育て環境をさらに高めて、出産や子育てを存分に「楽しめる」まちにすることで、若い世代の出産や子育ての希望をかなえていきます。

また、何よりも子ども自身が「大和で生まれ育って良かった」と実感できるまちにすることで、健やかな成長を支えていくとともに、愛着意識を醸成し定住志向も高めていきます。さらに、結婚を希望する人への支援のあり方についても検討を進めていきます。



○数値目標

項目	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2019年)
年少(0~14歳)人口	30,312人	30,114人
保育所等利用待機児童数(各4月1日時点)	25人	0人
婚姻率(人口千人対)	6.1件	6.1件

女性の目線を大切にしながら、第2子以降の出産のサポート、大和での子育てを支えていく視点

(重点施策等)

- ・保育所等の待機児童の解消
- ・妊娠出産育児包括支援(ネウボラ)、産前産後サポート事業
- ・不妊・不育症治療費の助成
- ・第2子以降の出産費助成
- ・双子や三つ子が生まれた時のサポート
- ・放課後寺子屋やまとの充実

▶▶ 個別目標1 出産しやすいまち・出産したくなるまちにする

①希望する人が子どもを産んで仕事に復帰できるようにする

- ・保育所等の建設や増設を支援し、働く人が子どもを預けられる環境を整えることで、出産や子育てを望む人の心のハードルを緩和します。

②出産・子育ての不安・悩み・負担を取り除く

- ・「プレママ・パパ教室」や離乳食講座、保育所における「まもなくママ講座」等を展開し、出産や子育てへの不安に対し、子どもが生まれる前からケアしていきます。
- ・中学生の職業体験学習「トライワーク」や保育所における異年齢交流を通じ、若年層から子育てに関わる機会を確保します。
- ・出産後については、乳児家庭全戸訪問、親育ち支援プログラムを実施するほか、育児相談の実施及び対応時間の延長の検討、子育て支援センターや「こども〜る（つどいの広場事業）」、保育所における地域育児支援事業の展開等により、子育て世帯を地域と行政が一体となってフォローし、安心感も創出していきます。
- ・さらなるサポートに向け、妊娠出産育児包括支援（ネウボラ）や産前産後サポート事業の実施について検討していきます。
- ・各学習センターにおける子育てサロン事業を体系的に展開するなど、子育てする人たちが気軽に参加し、集える環境を整えていきます。

③出産にかかる経済的負担を軽減する

- ・妊婦健康診査や妊婦歯科健康診査の費用助成を行うことで、安心して出産できる環境を整え、生まれてくる赤ちゃんの健康も確保していきます。
- ・第3子以降の出産費用を助成し、多くの子どもをもうけることの経済的負担を軽減します。また、サポートをさらに手厚くするため、助成の対象範囲を第2子以降に拡大していくことも検討します。
- ・不妊治療費や不育症治療費の助成を行い、子どもを望む人たちの希望をかなえていきます。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2019年)
保育所等の定員（2・3号認定）確保（累計）	2,722人分	3,364人分
こんにちは赤ちゃん訪問（乳幼児家庭全戸事業）・訪問率	94.61%	100%
妊婦健診利用実績（年間）	26,615回	28,798回

▶▶ 個別目標2 子育てしやすいまち・子育てしたくなるまちにする

①パパ・ママが働くのをサポートする

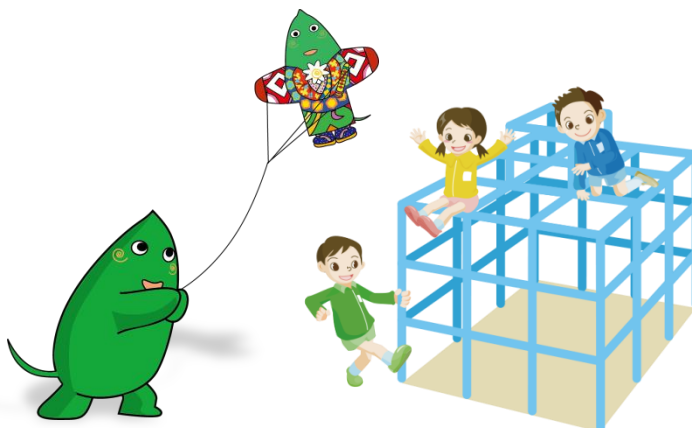
- 保育所等の建設・増設支援を進め、待機児童の解消を図ることにより、働きながら子育てをしたい人などの希望をかなえていきます。
- 休日保育や、病児保育と病児お迎えサービス、延長保育を実施するほか、幼稚園の運営支援による一時預かり・預かり保育の充実を図るなど、多様な保育ニーズに応じていくとともに、保育コンシェルジュを配置し、希望に沿ったサービスが受けられるようコーディネートしていきます。
- 放課後児童クラブを運営し、子どもの就学後も安心して仕事に行ける環境を提供します。

②子育て等に関する情報を分かりやすく伝える

- 携帯電話等に情報を配信する「らくらく予防接種」により、分かりやすく適切な時期に予防接種を受けられるようサポートするとともに、子どもの成長段階に対応して、必要な情報を収集・閲覧できる[子育て情報発信サイト](#)・[子育てアプリの創設](#)を検討していきます。

③子育てにかかる経済的負担や身体的負担を軽減する

- 子どもの医療費を中学生まで全額助成（健康保険適用分）し、子育てにかかる経済的負担の軽減を図ります。
- 市立小中学校等に通う第3子の給食費の助成するほか、[双子や三つ子の子育てを支援する仕組み](#)など、より多くの子どもを望む人の経済的・身体的負担の軽減を図ります。
- 子育て世帯が親族のサポートを受けようとすることについては、[3世代同居や近居](#)の支援に加え、その後に想定される[ダブルケアへのフォロー体制の構築](#)に関しても同時に検討していきます。
- 本市が独自で行う行政サービスについて、寡婦（夫）控除をみなし適用するなど、ひとり親による子育てを支援していきます。



④大和で生まれ・学べて良かったと感じられる子育て・教育環境を確保する

- 身近な公園に加え、「大和ゆとりの森」をはじめとする大きな公園の充実を図るほか、放課後子ども教室を開催するなど、子どもが安全に伸び伸びと成長できる環境を提供していきます。
- 平成 28 年 11 月にオープンする文化創造拠点において「屋内こども広場」を運営し、天候や季節の制約を受けることなく、子どもが全身を使って思いっきり遊べる場所も確保していきます。
- 4か月の赤ちゃんに絵本をプレゼントする「ブックスタート」事業の展開や、文化創造拠点に整備する「健康図書館」の児童図書配架コーナーを魅力あるものにしていくなど、子どもが本とともに成長できる環境を充実させていきます。
- 市立小中学校において、英語教育や学校図書館教育を推進するとともに、「放課後寺子屋やまと」による学力向上支援など、多面的に教育環境の充実を図り、全ての子どもが、大和で生まれ・学べて良かったと感じられる環境を提供していきます。
- また、一人ひとりを大切にしたい支援に努めるとともに、努力したプロセスを認めることで、児童生徒が自己肯定感を高く持ち、良好な交友関係を構築するよう努めていきます。さらに、仲間・家庭・地域への感謝の気持ちを育むことで、大和で生まれ・育てて良かったと感じられる学校教育を展開していきます。



K P I (重要業績評価指標)		現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2019年)
放課後児童クラブ受入れ児童数		948人	1,539人
市民意識調査「子育てに関する不安を相談できる場があると思う市民の割合」		50.0%	62.5%
市民意識調査「経済的に不安がなく子育てができていくと思う市民の割合」		39.5%	48.5%
将来の夢や目標を持っていると答えた 児童・生徒の割合	小学生	91.2%	91.2%
	中学生	71.4%	72.0%

▶▶ 個別目標3 結婚しやすいまち・結婚したくなるまちにする

①結婚へと繋がる支援のあり方を検討する

- 市民を対象とした意識調査を実施するなど、結婚に関する支援の必要性なども含め、先進自治体や国の動向を踏まえつつ、検討を進めていきます。
- スポーツやイベントの開催等による出会いの場の提供に加え、結婚に関する相談体制の構築など、有効な支援策について、多角的に検討していきます。
- 結婚や出産といった人生の節目の届出をした市民に、記念証等を進呈することなどによって、大和で家族が増えることの喜びに、花を添えていきます。

K P I (重要業績評価指標)	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2019年)
結婚に関する意識調査実施回数	0回	1回

○基本的な考え方

人口の自然増を考える上では、出生数の維持や増加がもちろん大切ですが、健康寿命の延伸や介護予防に取り組む視点も重要です。

また、バリアフリー化等によって市内の安全性を高めることにより、高齢の人へ配慮しつつ、ベビーカーで出かけやすい環境にするとともに、平坦な地形・高い交通の利便性といった大和市の特性がさらに引き立つような取り組みを展開していくことで、外出したくなるような楽しいまちにしていきます。

これにより、「交通や買い物の利便性が高い」、「暮らしやすい」、「暮らしが楽しい」、「子どもを産み育てやすい」、「いつまでも元気で暮らせる」のように、子どもから大人まですべてのライフステージで暮らしを満喫できる都市を実現し、人口の自然増と社会増の両面にアプローチしていきます。

特定のエリアで人口減少が進むと、空き家の増加や治安の悪化など、まちの安全性の低下が懸念されるほか、地域力が弱くなることにより防災力の低下等も想定されるため、大和市内全体で人口の均衡が図られるよう、取り組んでいく必要があります。



○数値目標

項目	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2019年)
市民意識調査「健康であると思う市民の割合」	79.0%	80.0%以上
市民意識調査「大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う市民の割合」	75.7%	83.0%
年間犯罪発生件数	2,317件	2,065件

地形の平坦性をはじめとする交通の利便性、大和市の魅力を活かす視点

(重点施策等)

- ・健康ポイントの導入
- ・女子サッカーを中心としたスポーツの推進
- ・健康図書館を備える文化創造拠点の整備
- ・コミュニティバスの活用
- ・自転車利用の推進
- ・中央林間駅周辺の整備
- ・立地適正化計画の策定

▶▶ 個別目標1 いつまでも健康でいられるまちにする

①健康寿命の延伸を図る

- 文化創造拠点の図書館について、健康維持・増進に役立つコンテンツ、測定器具を備えた「健康図書館」として整備し、市民の外出を促しつつ、健康都市のランドマークとなるような空間を創出していきます。
- **健康ポイントを導入**し、市民が自ら取り組む健康増進を促していきます。
- 健康遊具の設置を進めることで、市民の健康維持増進、介護予防につなげていきます。
- 保健師・管理栄養士による地域訪問活動の拡大し、市民の生活習慣病・介護予防に取り組むとともに、がん検診の受診率向上や地域医療体制の充実を図ります。
- 市立病院における良質な医療の提供と、安定的な経営を進め、将来にわたって子どもから大人まで市民が適切な医療を受けられる体制を確保していきます。

②スポーツを推進する

- 駅から至近の距離にある「大和スポーツセンター」や、真新しい施設が「大和ゆとりの森」など、関連する施設の充実により、市民の暮らしにスポーツが溶け込むような環境を整え、スポーツの推進を図っていきます。
- 総合型地域スポーツクラブの育成と運営支援、ホームタウンチーム制度の導入など、女子サッカーを中心としながら、地域スポーツの振興を図ることで、スポーツに対する関心を高めつつ市民がスポーツに親しむよう促し、健康の維持増進に繋がるとともに、大和への愛着意識の醸成のほか、知名度の向上にも繋がっていきます。



K P I (重要業績評価指標)	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2019年)
市民意識調査「自ら健康づくりに取り組む市民の割合」	63.3%	78.0%
市民意識調査「日常的にスポーツを楽しんでいる市民の割合」	33.8%	37.7%

▶▶ 個別目標2 楽しく外出できるまちにする

①新たなコミュニティバス利用の提案

- コミュニティバス「やまとんGO」と「のろっと」の一日乗車券を新たに発行し、大和市内の移動をさらに便利なものとし、市民の利便性を高めながら、まちの活性化につなげます。



②親子で出かけたくなるまちにする

- まちのバリアフリー化・歩道のセーフティーアップ化を進め、ベビーカーを押しながら、市内のどこにでも行ける環境を整備するほか、幼児3人乗り自転車の購入費を助成するなど、親子での外出をサポートしていきます。

③ぶらっと出かけたくなるまちにする

- いよいよオープンする文化創造拠点について、毎日訪れたいくなる「健康図書館」を整備するとともに、芸術文化ホールにおいて魅力的で質の高い音楽・舞台・芸術を提供していくことにより、思わず出かけてみたいくなる、文化の薫りあふれるまちにしていきます。
- プロムナードの東側を文化的でスタイリッシュな通りにリニューアルするなど、市内の景観の向上を図るとともに、プロムナード西側を「なでしこの道」とし、まちの魅力を高めていきます。
- 「大和ゆとりの森」について、高座渋谷駅からのルート案内を整備するなど、利用環境の充実を図りながら、普段の暮らしの身近で遊びを楽しめるスポットにしていきます。
- 自転車通行帯を整備するなど、地形がフラットという大和市の特性を活かしながら、市民の気軽な移動をサポートしていきます。
- 新たに市民の文化活動や市民活動の拠点となる施設を整備するほか、地域の居場所「ぶらっと」を整備することなどにより、市内を気軽に外出したくなる空間にしていきます。

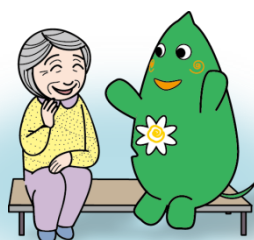


K P I (重要業績評価指標)	現状値	目標値
	(H26:2014年)	(H31:2019年)
コミュニティバス利用者数	421,183人	728,715人
市民意識調査「大和市は、良好なまち並みが形成されていると思う市民の割合」	48.8%	53.0%
市民意識調査「文化や芸術活動が盛んに行われていると思う市民の割合」	39.5%	58.4%

▶▶ 個別目標3 子どもから大人まで、いつまでも暮らしやすいまちにする

①市域全体の均衡ある発展を促すまちづくり

- ・市民交流の拠点となる場が市の北部にない現状等を踏まえ、「中央林間地区街づくりビジョン」に基づき、中央林間駅周辺の都市機能の向上を図っていきます。
- ・**立地適正化計画の策定**を進める中で、65歳以上の人口割合が高くなっている地域があることも踏まえ、医療や福祉、子育てをはじめとする生活に関わるサービス機能や、各エリアのポテンシャルを活かした居住誘導等も視野に入れながら、人口を含め、市全体の均衡ある発展を促していく観点をまちづくりの基本とし、持続可能な都市経営を目指していきます。



②防災・防犯力、まちの安全性を高めるとともに、市民のつながりを強める

- ・街頭防犯カメラの増設を進め、安心して暮らせる犯罪のないまちを目指していきます。
- ・市内において**自転車の適正利用を促す体制の強化**を検討するなど、道路交通の側面からも、さらなる安全性の向上を図っていきます。
- ・自治会活動の支援や自主防災組織の活動支援を行うとともに、消防団の活動支援の充実を図ることで、地域力を維持向上させていきます。
- ・やまと市民討議会の開催など、幅広い人から市政に関する意見を収集する場を設けつつ、世代間の交流にもつなげていきます。
- ・新たに、市民の文化活動や市民活動の拠点となる施設を整備することで、市民の結びつきを強めていきます。(再掲)
- ・子どもから大人まで、誰もが、いつまでも暮らしやすいまちになるよう、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進めていきます。

K P I (重要業績評価指標)	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2019年)
防犯カメラ設置台数	404台	539台
市民意識調査「地域活動に参加している市民の割合」	27.4%	33.0%

基本目標 Ⅲ

仕事が見つかりやすく、働くことが楽しいまち

○基本的な考え方

国や本市が行った意識調査によると、結婚資金、出産や子育て、教育にかかる費用などについて、負担を感じている人が多くみられるため、生計を支えられる仕事の確保が重要になっているものと思われます。大和市では神奈川県内19市でも2番目に創業比率(2009～2012年)が高いというポテンシャルをさらに活かすため、創業を支援していく取り組みを推進し、雇用の創出につなげていきます。

また、本市は交通の利便性が高いこともあり、市内外を問わずどこにでも通勤できるため、様々な働き方を希望する女性のサポートや、若者の働く意欲を高める取り組みも進めつつ、地域の特性を踏まえた企業誘致のあり方なども検討していきます。

さらに、まちの活力の維持に向け、「さがみロボット産業特区」内であるという立地を活かした市内工業の振興などにも取り組んでいきます。

○数値目標

項目	現状値	目標値
	(H26:2014年)	(H31:2019年)
市内事業所従業者数	76,316人	85,000人
市民意識調査「高齢の人が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合」	56.6%	57.5%

大和市民一人ひとりが
活躍できるまちを
目指す視点

(重点施策等)

- ・「ロボット産業特区」を活用した工業支援
- ・介護ロボットを導入する事業所等の支援
- ・創業支援スペースの設置

- ・人材マッチング制度の構築



▶▶ 個別目標1 近くで働けるまちにする

①ワークライフバランスを進める企業の支援等を行う

- **女性活躍推進計画の策定**を進めつつ、ワークライフバランスを推進する企業の優遇制度など、男女がともに仕事や家庭の両立を実現できる環境づくりを目指していきます。
- **事業所内保育所の設置を支援**するなど、近くで働くことを希望する人のサポートを進めていきます。

②若年層等の就労をサポートするとともに、働くことの楽しさを伝える

- 就職に向けた相談会やセミナーを開催するほか、若年者に向けたきめの細かい個別対応など、新たな就労支援について検討していきます。
- 夢の教室や職業講話、創意くふう展、ロボットフェスタの開催など、小中学生へ夢を持つこと、仕事の素晴らしさ、楽しさへの理解を深めてもらう場を提供していきます。

③創業・企業の支援を行う

- 神奈川版オープンイノベーションに参加する中小企業へ助成を行うなど、「さがみロボット産業特区」を活用しながら、工業支援を進めていきます。
- 介護従事者の身体的負担の軽減や業務の効率化を図るため、**介護ロボットを導入する事業所等に向けた助成制度を創設**していきます。
- 間接融資、利子補給制度等による産業支援のほか、出展料の補助等による販路拡大の支援を行います。
- 市内産業の核となる大和商工会議所の運営を支援します。
- 高い交通の利便性等をはじめ、大和の特性を踏まえた**企業誘致のあり方について検討**していきます。
- 商業戦略計画の推進を中心として、商店街、商店の魅力を高めようとする取り組みを支援することなどにより、市内商業の活性化を図っていきます。
- 創業支援に向けた相談会、セミナーを開催するほか、**創業支援スペースの設置**及び運営を行い、産業振興を図っていきます。
- **事業承継の支援**等により、少子高齢化による後継者不足に対応し、市内産業の活力を維持していきます。

K P I (重要業績評価指標)	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2019年)
女性活躍推進計画の策定	未策定	策定
創業支援コーナー設置か所	0か所	1か所

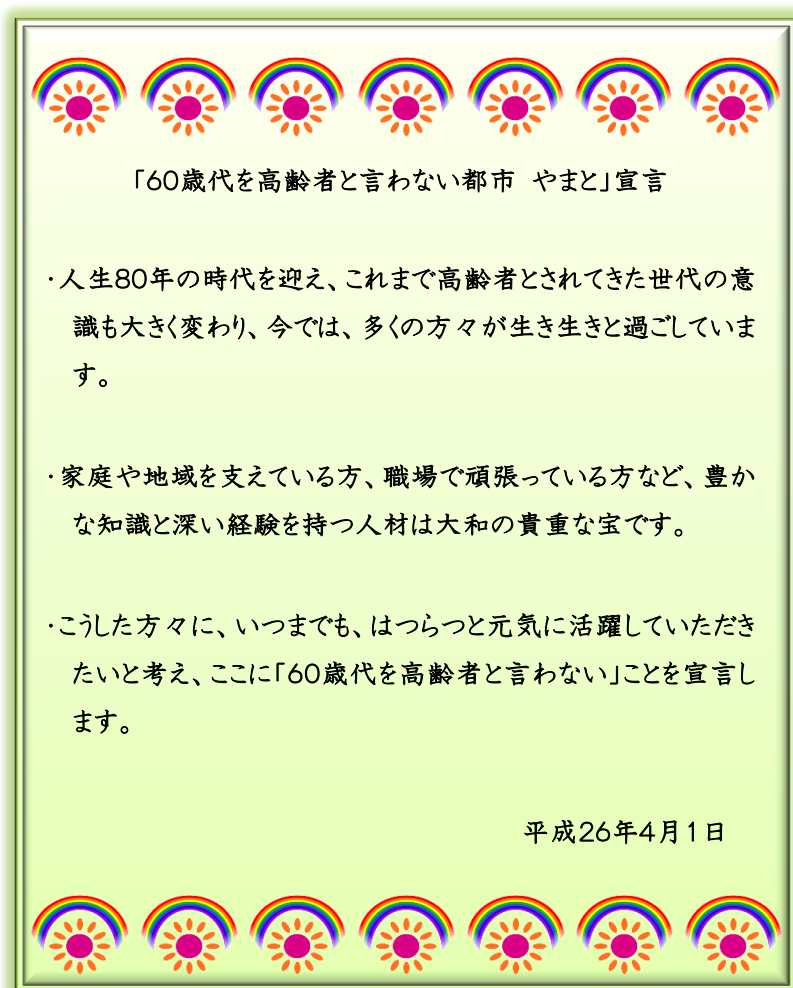
▶▶ 個別目標2 いつまでも・誰もが活躍できるまちにする

①豊かな経験や知識を活かしてもらう人とステージをマッチングする

- ・シルバー人材センターの運営を支援するほか、趣味・特技・資格等を持ち市民活動を希望する人と、その人材を求める人とのマッチング制度を新たに構築します。

②誰もが活躍できるまちをめざす

- ・障がいの有無や年齢に関わりなく、誰もが活躍できるまちを目指していきます。



K P I (重要業績評価指標)	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2019年)
人材のマッチング件数(年間)	0件	50件

基本目標 IV

都心に・海に・山に近い、便利で暮らしが楽しく、富士山にも出逢えるまち

○基本的な考え方

大和市は神奈川県を中心に位置し、非常に便利な交通網を使うことで、様々なスポットにすぐに行くことができます。子育て、仕事、買い物、遊びといった、生活のあらゆるシーンに対応可能な最高のロケーションを有しており、「便利で暮らしが楽しいまち」としての魅力を生市内外にPRし、社会増を促していきます。



また、市内にも暮らしが楽しくなる魅力的なスポットがたくさんあります(9ページ参照)。そして、コンパクトな市域にある子どもの遊び場や、自然、文化、スポーツなどを楽しめる様々な施設等は、県内で最も充実したコミュニティバスによって結ばれています。

さらに、「大和市民まつり」をはじめ、「YAMATO ART100」、「全国ふるさとまつり うまいもの市」など四季を通じて多彩なイベントが開催されています。

こうしたロケーションに加え、「充実した子育て・教育環境」をPRし、30歳代の子育て世帯の転出超過傾向を抑制しながら、年少人口の増加へと結びつけ、まちの活力を維持していきます。

○数値目標

項目	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2019年)
市民意識調査「大和市内にずっと住み続けると回答する20~30代の市民の割合」	32.2%	38.2%
人口の社会増減(30歳代)	-114人	-64人

大和の「暮らしやすさ」
「楽しさ」をPRする
視点

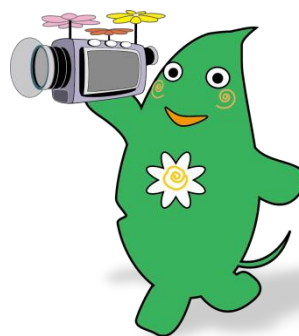
(重点施策等)

- ・フィルムコミッションの推進
- ・市民の手によるまちの魅力の発信・PRの支援
- ・新たな市民の参加型イベントの開催

▶▶ 個別目標1 やまとの魅力を発信する

①市内・全国にまちの魅力を発信する

- 市内に8つの鉄道駅があることや、充実したコミュニティバス、都心へのアクセス性の高さ、地形がフラットな点など高い交通の利便性に加え、買い物に便利な点や充実した子育て支援制度なども含め、東京圏でも屈指の「暮らしやすさ」を有している本市の特性を市内外に向けて積極的にPRしていきます。
- また、市内の新たな魅力スポットについても発掘、PRを行っていくとともに、効果的なシティセールスの展開に向け、市民の手によるまちの魅力や市政情報の発信を支援するなど、定住志向を高める取り組みを進めていきます。
- イベント観光協会と協力しながらフィルムコミッションを推進し、知名度・ブランドイメージの向上を図るとともに、女子サッカーチーム「大和シルフィード」にもシティセールスで活躍してもらいながら、市民の愛着意識を醸成していきます。
- YAMATO de Ingress を展開し、交流人口を増やすほか、市民の健康維持増進にもつなげていきます。
- 転出超過の状態にある30歳代に魅力を感じてもらおうまちとして、「暮らし」にもつながる女性目線の観光・生活情報の発信について検討していきます。
- 大和のブランドイメージを高めるような、分かりやすく魅力のある住居表示について検討していきます。



K P I (重要業績評価指標)	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2019年)
フィルムコミッションで対応した撮影件数	75件	90件

▶▶ 個別目標2 魅力的なイベントの開催・やまとの味覚を提供する

①このまちに住みたいと思えるイベントの開催

- ・「大和市民まつり」、「渋谷よさこい」、「YAMATO ART100」、「全国ふるさとまつり うまいもの市」等、魅力的なイベントの開催などに取り組んでいきます。
- ・多くの市民も一緒に楽しめる参加型イベントの開催のほか、市内の魅力的なスポットへの夜間ライトアップの推進、身近な地域資源を活用したイベントの開催等を通じて、交流人口の拡大や定住志向を高める取り組みも進めていきます。
- ・やまと世界料理の屋台村や国際交流フェスタの開催支援等を通じ、多文化共生の取り組みも進めていきます。
- ・イベントキャラクター・ヤマトンに活躍してもらい、知名度の向上や市民の大和市への愛着を深める取り組みを進めていきます。

②やまとの味覚の提供

- ・6次産業化や農商工業間の連携に向けた体制を構築しつつ、地場産農作物等の活用も視野に入れ、新たな味覚の発掘を検討していきます。
- ・「全国ふるさとまつり うまいもの市」の開催や市内の商業者が行う商品開発等の支援を行うことなどにより、やまとの新しい魅力あるグルメの創出を促していきます。



KPI (重要業績評価指標)	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2019年)
新たに開催するイベント数(累計)	__件	2件
全国ふるさと うまいもの市の開催件数(年間)	1件	1件

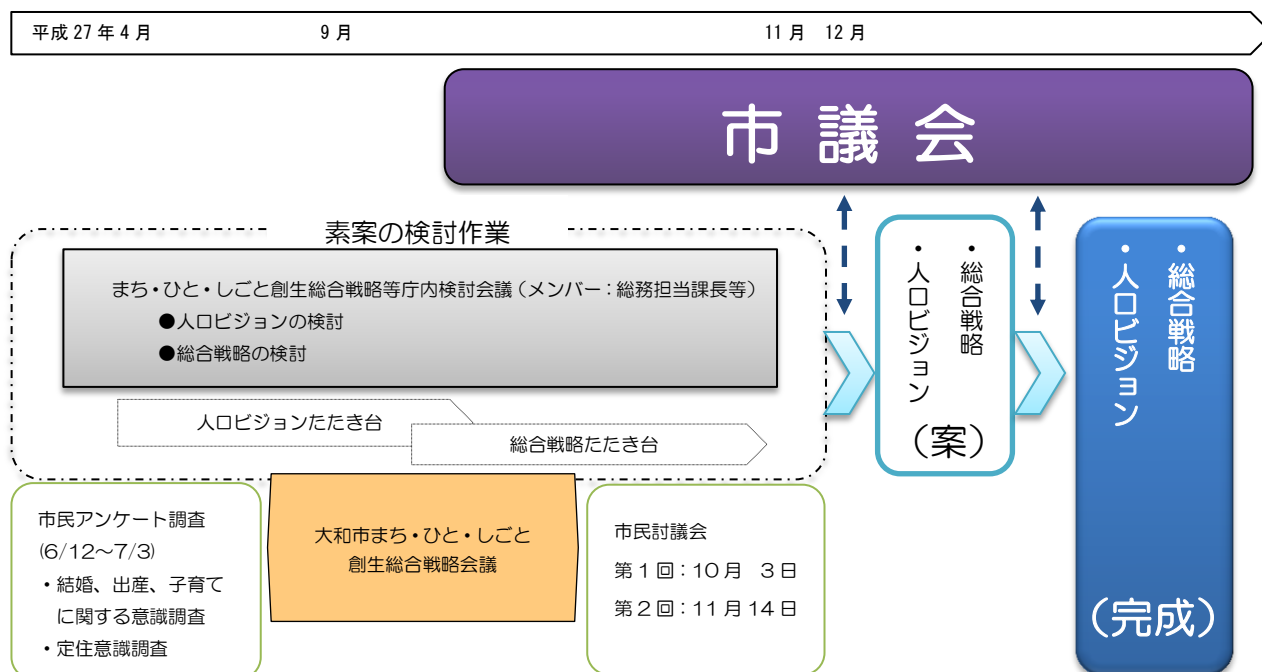


4. 戦略の策定経過とPDCAサイクル

4. 戦略の策定経過とPDCAサイクル

(1) 策定の経過

○全体の流れ



○市民アンケート調査

- ・実施期間：平成 27（2015）年 6 月 18 日（木）～7 月 3 日（木）
- ・調査方法：郵送により配布・回収
- ・調査内容：結婚・子育てに関する意識（独身者・夫婦世帯）、定住意識
- ・対象者数：次のとおり

	独身者 アンケート	夫婦世帯 アンケート	定住意向 アンケート	全体
配布数	2,000	2,000	2,000	6,000
回収数	392	854	951	2,197
回収率	19.6%	42.7%	47.6%	36.6%

○大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

- ・大和市版総合戦略の策定にあたり、様々な分野の関係者等から専門的かつ総合的な意見を聴くことを目的として、次の通り設置しました。

- ・設置年月日：平成27年9月8日

- ・委員：(◎=座長、○=副座長)

委員氏名	区分	役職等
小野沢 滋	学術分野・大学関係者	北里大学病院 トータルサポートセンター長（医師）
川崎 泰彦	行政機関職員	神奈川県 県央地域県政総合センター所長
宮東 悠 ○	産業分野関係者	大和商工会議所会頭
小別所 ひで子	メディア関係者	株式会社神奈川中央新聞社 リベルタ 代表取締役
島津 正明	労働分野関係者	大和公共職業安定所所長
鈴木 健	金融機関関係者	横浜銀行大和支店支店長
渡辺 勝之 ◎	学術分野・大学関係者	聖セシリア女子短期大学学長

(50音順・敬称略)

- ・開催結果：

第1回会議（平成27年9月30日 市役所5階・第5会議室）

- (1) 大和市版人口ビジョンの策定に向けて

第2回会議（平成27年10月28日 勤労福祉会館2階・中会議室）

- (1) 大和市版人口ビジョンの目次（案）と策定イメージについて
- (2) 地方版総合戦略のフレームについて

第3回会議（平成27年12月21日 市役所5階・第5会議室）

- (1) 大和市版人口ビジョンについて
- (2) 大和市版総合戦略について

第4回会議（平成28年1月27日 市役所5階・委員会室）

- (1) 大和市版人口ビジョン・総合戦略について

○やまと市民討議会

・概要:

本市では平成 24 年度から、日頃、市政に意見を表明する機会の少ない市民の方から意見を伺うことを目的に開催しており、平成 27 年度は地方版総合戦略の策定に向け、次の 2 つをテーマに開催しました。

・開催内容:

●平成 27 年 10 月 3 日 第 1 回 テーマ「人口減少を食い止めるアイデア」



子育て支援環境を もっと充実させるためには

子育て支援に関する情報が不足している	子育て支援情報の発信、入手をスムーズにするためのアプリを開発し、繰り返し発信しよう	大和市の子育て施設や支援制度を把握していない市民が多い	子育て支援に関するホームページを充実させ、「子どもが〇歳」と検索すると、受けられる制度や支援などの一覧が出てくるようにしよう
緊急時の子どもの預け先など、子育て層の求める支援メニューがない	すぐやる課、何でも相談室を設置しよう 子育て層の支援ニーズ把握のために、市民討議会の継続的実施、若者を巻き込んだプロジェクトチームを発足し、取り組もう	SNS や掲示板、ゆるキャラを利用した情報発信があるとよい	駅やスーパーに電子掲示板を設置して、情報を迅速に更新、PC やスマホを見れない人にも伝わるようにしよう
日頃、ご近所付き合いなど、地域でのコミュニケーションが不足している	空き家や大きな家を活用して、昔の大家族のようなあたたかみのあるシェアハウスをつくらう	地域のコミュニティを強め、子育てでいざという時に頼れる人がいるとよい	コミュニティセンター主催の親子向けイベントなどで、ネットワークづくりを。子育てする若い家族を地域で支援することについて考えるワークショップを行おう
日常でも、子どもを育てる(預かる)環境がない	コミュニティセンターのより一層の充実と活用をしよう子育て支援の可能性を身近な市の施設で探そう	ママのネットワークを強めてお互い助け合えるようにできないか	互助につなげるため、集える公園を充実させる。やまとん号で泉の森に行けることをアピールしよう
		住宅を取得して年数の経った人に出産お祝金を	金銭面が不安な若い親が多いので、3人目以降の出産には市からお祝い金の制度があるとよい

子育てしやすいような魅力を見つけ、伝え、アップするアイデア

男性による子育てのよさを見え化する発信が必要	結婚しなくても子どもを持てる、「男性による子育てはカッコイイ」ブランドをつくらう
子育てしながら働けるまちな環境やイメージづくりが必要	
国際交流に力を入れて、インターナショナルなイメージを形成	大和の資源を生かして国際交流に力を入れたグローバルな子育てができるまちブランドをつくらう
子どもを産み育てるための意識啓発のイベントの充実が必要	コミュニケーションを重視した子どもを産み育てるための意識改革イベントを開催しよう
大人も子どもも楽しめる場所がない	泉の森を活用して親子の遊び場を確保しよう
HP での子育てなどに関する情報発信を充実させ、分かりやすくする必要があります	大和市内、市外を問わず、大和市の子育ての魅力を発信するため、既存の HP を直感的に分かるように改善しよう
医療・福祉	学校以外でも、「寺子屋」など、様々な教育の環境が整っている環境をつくらう
ウリになる景色、自然、スポット、イベントがあり、都心へのアクセスのよさがあることを活かさないか	バリエーション豊かなまちの資源を、地域にゆかりのある企業とタイアップして、工夫ある PR をしよう!
縦に長い特徴や興味深い歴史がある	「大和市」の魅力の PR 方法は、色々な方法がありそう! 既存の方法以外の工夫に知恵を出そう!
公園は点在しているが、もっと魅力的な活用ができないか	自然・公園・施設など、「親」と「子」で一緒に遊べる場所を増やそう
災害に強く、移動しやすい平坦な土地	「自転車でもどこでも行ける」「ベビーカーも移動しやすい」という平坦な地形の便利さを伝えよう!
犯罪の少なさ、地価の安さ、活気ある商店街等の魅力を人口増加につなげられるとよい	「子育てがしやすいまち」だと気づこう! 住民自身が口コミで PR しよう!

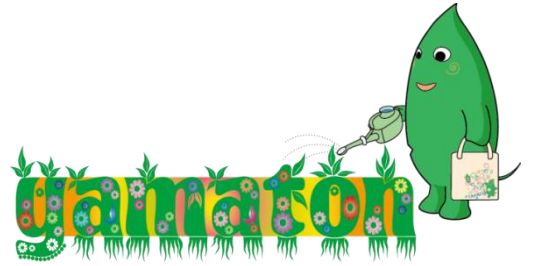
定住できる環境(住宅・雇用)や、経済的不安を解消するアイデア

核家族化の進行 地域コミュニティが希薄で支えあえない 家賃が高くて住めない	スーパの冷めない距離での多世帯の居住や二世帯住宅・多世帯住宅など、「近居・同居」の大和スタイルをつくらう	若い人に魅力的な生活環境が不足している	若い人に選ばれる生活環境として、高齢者や高校生もボランティアとして子育てのサポートに関わる仕組みをつくる
子どもの遊び環境が悪化	楽しく育った思い出のあるまちには将来戻ってきたいとなるので、子どもが安心して自由に遊べる環境をつくらう	高齢者が子育て世代の相談にのり、手伝える施設や仕組みが必要	高校生も子育てでサポートや交流ができるとよい
収入が少なく定年後の経済的安定につながらない	高齢になって安心して住み続けられる環境づくりにより、家族と一緒に住めるまちになり、税収の確保にもつなげよう	住宅を若い人に安く提供できないか	市営住宅に住む若い世代の収入条件を緩和して、若い人たちにとどまってもらえるようにしよう
高齢になって自立して安心して住み続けたい		定住したいと思う魅力は既にある	定住できる魅力的な環境はすでにある! ことを PR しよう
子育てにお金がかかりすぎる	北部の保育所の充実や養育費の補助、子育て施策の PR を通じて、市のフォローがあり、安心して子育てできる環境づくりを進めよう	定住に結びつく教育環境の充実が必要	特殊な技術を学べる専門学校を誘致し、学びからまちの雇用につなげよう
産後の仕事への復帰、子育てと仕事の両立が課題		魅力あるユニークな企業を誘致し雇用を生み出す工夫が必要	「特区」をつくって、小さくても魅力ある企業を誘致し、「〇〇のまち大和」でたくさん雇用を生み出そう
市内の企業が少なくて、雇用の拡大が必要	商店街の空き店舗を活用して、新しいお店を誘致し、身近な雇用を生み出そう	出産後も定年後も活躍できるまちにすべき	企業と多様な働き手をマッチングしよう

若者が出合える場や機会をつくらう

面と向かわずとも会話できるツールがある	色んな人、世代が会って語り合える交流の場をつくらう	若者向けのイベントが少ない	小さいころから社会人まで繋がっている学校だけにとまらないコミュニケーションの場を増やす。スポーツ、音楽など文化活動、ボランティア、防災活動。
個人情報が入らず、世話焼きができない	「大和ですって住み、働き、学ぶ!」をスローガンに、大和市で結婚相談センターや相談員を設置しよう	若い人が集えるところが少ない	若者が気軽に集えるスポーツや文化センターなどの場を作り、若者主体を行政・企業・市民が支える仕組みで運営する
人と積極的に触れ合わない	大和市が行っている様々な取り組みをまとめ、情報発信していこう	(地元)に魅力を感じられない	大和市への愛着を向上させるべく地元タレントなどを企画し、ファン同士の交流などを仕掛ける
勉強や日々の生活の忙しさから、友人とのコミュニケーション力が低くなる	地域のイベントに積極的に参加し、出合いを増やせるよう、色んな世代が主体的に関われる環境づくりをしよう	学生は勉強や部活で忙しくて時間が無い	若者の企画を実現できるイベントを学校行事に組み込むなど時間が無くても参加しやすい形で行う
恋愛の楽しさを知らない	地域のイベントに積極的に参加し、出会いを増やせるよう、色んな世代が主体的に関われる環境づくりをしよう		
学生は男子は弱体化し、女子は自信ありな人が多い!	恋愛や結婚の大切さを知ってもらおう機会を学校教育に取り入れよう		
会社でのコミュニケーションが少ない	コミュニケーションが円滑でない中小企業に対して、大和市が出会いの場や育児支援を促そう		





●平成 27 年 11 月 14 日 第 2 回 テーマ「大和市に住みたいと思う人を増やすには」

表の見方

課題 → 解決アイデア



安心・安全に暮らせるコミュニティづくり

知名度が低い 自然を大切にしたい 古いものと新しいものを共存させたい	富士山が見えるスポットのマップをつくり PR しよう
交通事故のない安全なまちにしたい	飛び出し注意のキャラクター看板の設置や見通し、通学路の安全を確保しよう
夜も明るく、治安がよい、安全なまちにしたい	治安 No.1 のまちを目指して、人気の店をまちの奥に置くなど、回遊性を高めて商店街を賑やかにしよう+街灯を増やそう
災害時にどうしたらよいかわからない	世代別に安心して情報を得ることのできるツールを確保しよう
自治会に加入する人が少ない コミュニティセンターをもっと活用したい	コミュニティセンターに人をつなぐコーディネーターを置いて、子どもと高齢者の交流を活性化しよう
働きながら安心して子育てをしたい	お母さん同士が助け合える環境をつくらう
子どもが健全に育てられるか不安	新米お父さんお母さんのための子育て相談会を開催し、先輩ママや専門家との連携や、おばあちゃんの知恵袋を活用しよう
多世代交流の場がある	コミュニティセンターに学生が勉強するところをつくり、勉強に使える資料を置いたり、ドリンクバーを設置したりすることで、利用者を増やそう 夏休み期間中、不登校の子どもにボランティアの学生（大学生）が勉強を教える場をつくらう 地域の多世代にもっと集まってもらうために転入の際にコミュニティセンターの機能を伝えたり小中学校と連携して子ども向けの情報を伝えよう
近所コミュニティが充実するとよい	利用者や時間のある高齢者に管理をお願いし、半官半民で運営する新しいコミュニティセンターにしよう



子育てしやすい、子どもが育ちやすい環境づくり

働く世代を応援するまちになって欲しい	開業・起業に向けて市が金融的な補助をしよう	地域の人の働く場にもつながる高齢者施設があるとよい	将来、自分が入居することを見据え、今入居している世代のために働けるような市民参加型の高齢者の住まいをつくらう
新しい技術や職能を身につけられる場があるとよい	介護職などの必要とされる資格や技術を学べるサポートをしよう	子育てと仕事を両立できる	子育て世代が働きやすい多様な選択肢を提供できるように、駅近くの託児所、夜間対応の保育園、在宅勤務などを推進しよう
正規雇用する職場や、多様な働き方ができる職場が増えたとよい	共通性を推進するために、勤務時間を自由にできる企業の誘致や、在宅で働ける環境づくりをしよう	職場だけでなく、リフレッシュできる場所もまちの中にあるとよい	
大手・知名度のある企業を誘致できるとよい	ダブルワーク、ダブルインカムを学べる、できる場があるとよい	高齢者の雇用を促進することが大切	高齢者や障がい者がいきいきと働けるよう、専門性を活かせる職場とのマッチング、ネットワークづくりの支援をしよう
多様な世代の交流を促進できるとよい	多様な世代の交流を通して、世代を横断した助け合いが新しい雇用を生む仕組みをつくらう	若者が働きたくないような労働条件のよい企業がない	若者に魅力的な企業誘致のため、短期的には企業育成、税制優遇、長期的には都市計画や交通の利便性向上などを検討しよう
大和市の知名度を向上させたい	“〇〇”で有名な大和市ブランドをつくるために、ランドマークや企業の誘致、新しい暮らし方を発信しよう	多様な世代の就職のサポートをするにあたって、市からの一方的な情報提供だけではよくない	市民と市が相互に情報交換しながら、仕事をマッチングする仕組みをつくらう

〇〇×仕事 地域で働く環境づくり

コミュニティセンターがもっと小学校に近く、同世代や高齢者との交流を深められ、学童の代替施設として使えたとよい	コミュニティセンターで小学生向けのイベントをどんどん企画して小学校に PR していこう 小学校とコミュニティセンターの関係を近づけるために、コミュニティバスを活用しよう	子育てしながら働きやすい環境があるとよい	大和市内の駅に保育施設をつくらう（市内の駅の半数程度）
子どもを預けられる施設が増えたとよい	コミュニティバスを、子育てに関する色々な情報を得られる情報発信拠点にしよう	地域社会で学生～シニアが交流しながら、子育てや見守りに関わる仕組みがあるとよい	シニアが子どもを見守り、学生は子育てを学びつつサポートする、子育て支援の仕組みをつくらう 登下校の時間に、複数人で自発的に街角に立ち、子どもに声をかける見守り運動をしよう
働きながら、子どもを安全に育てている仕組みがあるとよい	「特定の子育ての悩み」を抱える前のタイミング毎に、学べる機会を提供していこう	子育てで世帯に集中した経済的な支援があるとよい	事業仕分けを行い、浮いたお金を子育て助成金や低額家賃住宅、市民税軽減に充て、市外にアピールしよう
親が「子育て」を学べる場や、機会が充実している	子どもが遊びに行きたくなる遊具のある公園の設置や屋内施設の充実など、遊び場の選択肢を増やしていこう	大和市の良いイメージづくりをし、アピールするとよい	外国人が多いことをプラスに捉えて交流の場を増やし、国際色豊かなまちとしてアピールしよう

年をとっても、いつまでも住み続けられるまちづくり

移動手段の選択肢が多いまちになるとよい	行きたい場所や時間帯に柔軟に対応する公共交通の仕組みをつくらう	病院が必要なくなるとよい	楽しく身体を動かす機会を増やして健康寿命を延ばそう
若い人からお年寄りまで、多世代の交流があるまちをめざそう	各世代が持っている得意分野を教え合う機会をつくれるように「一芸データバンク」をつくらう	リーズナブルに入居できる高齢者施設がない	施設に入居しなくても済むよう、それぞれに合った就業サポートをし、自立した生活を支援しよう
日常生活や趣味を続けるために、手助けしてくれる方や機会が提供されるとよい	老老介護を助け合って介護ができるように、公共交通機関の充実や専門家との連携とともに、「世代」「地域」が違うボランティアの方との協力関係を築こう	身近な人と支え合いができる関係がある	支え合える関係をつくるために身近に集まれる場やイベントをつくらう
歩くことが楽しいと思える魅力やスポットがあるとよい	まちのバリアフリー化を進め、身近な地域を回れる「テーマ型」の散歩コースをつくらう	集まれる場があっても気軽に参加できない	集まれる場に気兼ねなく参加できるように地域のコーディネーターを発掘しよう
一人暮らしでも安心して暮らせるまちになるとよい	身近な知り合い同士だけが知っている「合図」をつくらう		

(2) PDCAサイクル

- ・戦略に掲げた施策等に関しては、基本目標ごとに掲げた数値目標やKPIの到達度などを適宜検証する中で、戦略の実行性を高めていくとともに、人口減少対策として有効な施策についても機動的・弾力的に検討していきます。

○サイクルの仕組み



○サイクルの効果

